

종교교육학연구 제38권. pp.1-23

익산: 한국종교교육학회, 2012. 2. 28.

# 仏教系中等学校における宗教教科書開発

## － 大乗淑徳学園の事例 －

磯岡 哲也

日本淑徳大学

---

### 〈요 약〉

---

대승숙덕학원은 이른바 종립학교가 아니라, 정토종 승려였던 창립자의 「대승불교의 정신=공생」의 건학이념을 가진 학원으로, 정토종 내에서는 종립관계학교라고 하는 위치를 가지고 있다. 중학교에서는 3학년 모두 주 1시간, 고등학교에서는 1, 2학년이든지, 1, 3학년의 2년간 주 1시간씩 「숙덕의 시간」이라고 하는 종교교육과목이 개설되어 있다. 동 학원의 부설 하세가와 불교문화연구소에서는, 1996년부터 2년간 「종교 (건학정신) 커리큘럼 개발의 연구」 프로젝트를 실시하고, 세 학교의 중등학교에서 공통으로 사용하는 커리큘럼을 개발했다. 1998년부터 2001년도에 걸쳐서는, 「「숙덕(淑徳)의 시간」 교재 개발」 프로젝트에 의해 공통의 교재를 제작했다.

본 논문은 대승숙덕학원에서 시행하고 있는 종교교육 커리큘럼 및 교재 제작의 과정과 그 내용을 구체적으로 검토하고 이를 시행하게 된 배경과 시행 이후 발생한 문제점 및 새로운 종교교과서 개발의 방향 등을 고찰하였다.

핵심 주제어: 일본 대승숙덕학원, 종립관계학교, 종교교육, 종교교과서

---

## I. はじめに

本題に入る前に、この報告の性格を明らかにするため、宗教教育研究と筆者とのこれまでののかかわりについてその概略を紹介する。

井上順孝をリーダーとする宗教教育の記述的研究が、1990年から2001年にかけて行われ

## 2 종교교육학연구, 제38권

た、これは國學院大學日本文化研究所のプロジェクトで、第一期が「宗教と教育に関する調査研究」(1990-95年度)、第二期が「宗教教育の国際比較」(1996-2001年度)であった。この研究の成果が宗教教育研究者に与えた影響は大きい。とりわけ従来の宗教教育研究があるべき教育のあり方を論じる規範的または実践的研究であったのに対し、学生の宗教意識や宗教系私立学校の実態を把握するという記述的研究を行ったことの意義は大きいといえよう。井上はその後、高等教育における宗教文化教育の推進を提唱し、それが「宗教文化士」制度構築の流れになっている<sup>1)</sup>。筆者はこの研究グループに当初から参加しており、現場からのデータ収集に従事してきた。

他方、筆者には教育者としての実践的アプローチからの研究もある。筆者が勤務する学校法人大乗淑徳学園は中学校と高校を3校ずつ擁している。同学園はいわゆる宗門校ではなく、浄土宗の僧侶であった創立者の「大乘仏教の精神=共生」を建学の理念にもつ学園で、浄土宗内では宗門関係学校という位置づけになっている。中学校では3学年とも週1時間、高等学校では1、2学年か、1、3学年の2年間週1時間ずつ「淑徳の時間」という宗教教育科目が設定されている。同学園附置の長谷川仏教文化研究所では、1996年から2年間「宗教（建学精神）カリキュラム開発の研究」プロジェクトを実施し、3校の中等教学校で使用する共通カリキュラムを開発した。1998年から2001年度にかけては、「淑徳の時間」教材開発プロジェクトにより共通のテキストを作成した。筆者は、この2つのプロジェクトの主任としてカリキュラムとテキストの開発にたずさわった。

本報告は、この大乘淑徳学園が取り組んだ、宗教教育カリキュラムおよびテキストの作成過程とその内容を詳しく検討し、取り組みの背景とそこに存する課題を考察しようとする。宗教教育におけるカリキュラムやテキストの作成は、他の教科のように学習指導要領や教科書の検定がなく、どのような生徒を育てるのかという教育の目的や、生徒の実態に即したカリキュラムを作るための指針づくりから始めなければならない。また、宗教教育のテキストの執筆に慣れているスタッフはあまりいない。したがって、日本の宗教系私立学校が、宗教教育のカリキュラムやテキストを独自に開発している事例は多くはない。本報告は、その数少ない事例報告になるものと思われる。

---

1) 井上順孝, 「グローバル化・情報化時代における宗教教育の新しい認知フレーム」, 『宗教研究』 369, 2011, 111-136頁.

## Ⅱ. 宗教教育カリキュラム開発

### 1. カリキュラム開発の過程

学校法人大乗淑徳学園では、大学、短大、専門学校、高等学校、中学校、小学校の宗教担当の教員が研究班を編成して、1996年から2年間で、中等教育の宗教教育理念を明確化し、宗教教育カリキュラム案の策定を行った。そのなかで研究班は、学園のめざす生徒像の明確化として、次のように述べている。

大乘淑徳学園は、進みゆく時代、変化する時代にあつて、それに遅れることなく、一人ひとりが自立して個性を発揮し、社会に有為な人間を育成することをめざす。また、自らの人格完成を求めるだけでなく、他の人々も悟りに達するよう手助けをする菩薩としての生き方を理想とし、自らが生かされていることを自覚し、自らを人や社会に役立てることでそれに報いる「感恩奉仕」の精神をもって「共生」を実践する人間を育成する<sup>2)</sup>。

この教育目的の源は学祖と称される大乘淑徳学園の創始者長谷川良信の共生の思想である。長谷川は、1890年生、浄土宗第一教校に在学中、ユニテリアンの唯一館に出入りし刺激を受けた。宗教大学で渡辺海旭に薫陶を受け、東京の貧民救済活動を開始。28歳のとき、西巢鴨の通称二百軒長屋に移り住み、宗教大学の学生を率いて最初の隣保事業（セトルメント）を実践、翌年活動の組織化を図り、養護施設と乳児院のマハヤナ学園を創設、キリスト教社会事業家の賀川豊彦と同時期に活動したため、「西の賀川、東の長谷川」と称された。宗教・福祉・教育の三位一体を唱え、1950年淑徳高等女学校と大乘学園巢鴨女子商業学校を合併させ、学園の基礎を築いた。1965年千葉市大蔵寺町に淑徳大学を創設。長谷川は、「他者のためではなく、他者ととともに（not for him but together with him）」という共生の教育・福祉理念を提唱し、学園の基礎を築いた。研究班では、長谷川のこの共生の思想を、学園の教育の理念として、カリキュラム作成の基本方針とした。

「宗教(建学精神)」カリキュラム開発共同研究班の、発足当初の目的を箇条書きで示すと以下のようになる。

- 1) 本学園にふさわしい宗教教育または建学の精神カリキュラムを開発すること、とくに21世紀を見据えた清新な視点でのカリキュラムをめざす。
- 2) その際、学園内各部門の小学校から大学までの縦の一貫性と、中等教育における横の一貫性に留意する。

2) 『「宗教(建学精神)」カリキュラム開発の研究報告書』、大乘淑徳学園付置長谷川仏教文化研究所、1998、134－135頁。

#### 4 종교교육학연구, 제38권

- 3) また、建学の精神とは、学祖長谷川良信先生の思想にあるように、大乘仏教の精神に他ならないので、変動する現代社会における大乘仏教精神の今日的展開に十分留意する。
- 4) カリキュラム開発は、授業の実際に必要な教材、教科書、副読本、資料集の編纂といった教材開発につながる。したがって、従来ある『大乘淑徳教本』の改訂も含めたテキスト開発を行う<sup>3)</sup>。

研究班は、2年間という時間的な制約のため、次の段階に回した4番目を除いて、目的を達成させた。

最初に、研究班はカリキュラム開発の5つの具体的な方針を定めた。第1に「宗教」または「淑徳の時間」が設けられている中等教育部門の共通カリキュラムを作成することにした。将来は、小学校や専門学校以上の高等教育部門での検討も視野に入れるが、当面は必修単位が設定されている中等教育部門に絞った。なお同学園は、1996年当時は、淑徳中学校、淑徳巣鴨中学校、淑徳高等学校、淑徳巣鴨高等学校、淑徳与野高等学校の5校を傘下に置いていた<sup>4)</sup>。

第2は、3つの中等部門共通のカリキュラムをつくるということから、各部門のカリキュラム上の現状と問題点を出し合って、共通理解を図った。このことにより、3つの部門が抱えている細かい問題点が浮き彫りになり、必然的にそれを克服する方向でカリキュラムを開発するという方針が固まっていた。このような学校間での、科目内容にわたる横の連携は、同学園にとっては画期的な動きであった。

第3に、中学校の場合は、公立校の「道徳」を意識しながら開発した。したがって、大乘仏教精神による人間教育という学園の大目標にとどまらず、現代社会に生きる人間として、「人間尊重」、「生命への畏敬」、「生きるうえでの現代的課題」といったより普遍的な価値を追求しそれをカリキュラムに反映させようとした。

第4に、高等学校においては、淑徳高校と淑徳巣鴨高校の中高一貫のカリキュラムと、淑徳高校と淑徳巣鴨高校の外進者(高校からの入学者)および中学校のない淑徳与野高校のカリキュラムの二本建てで考えることとした。一貫教育をうたう学園ではあるが、カリキュラム上はどのように二つの形態に分かれざるを得ないという現実があった。

第5に、中学校では建前どおり週1時間3年間、高校では週1時間2年間の単位数を想定した。これは、体系的な宗教教育を教科として行うためには、この程度の時間は必要であるとの認識による。あわせて、共通カリキュラムとして部門内または部門間の教科会のコミュニケーションを密にするという観点から担当教員は原則として、専任教員によることが望ましいと考え、それを前提に議論した。

---

3) 磯岡哲也,『共同研究班の発足とカリキュラム開発の意義』,同上書,6頁。

4) 2005年に淑徳与野中学校が設置されている。

## 2. カリキュラムの内容

次にそのカリキュラム案を見ていく(資料1、2、3参照)。研究班によって示されたそれは、全体的に、ブッダの生涯、仏教教理、仏教史、仏教文学、他宗教への理解、そして人間教育として現代社会における仏教を生徒に主体的に考えさせる「共生」という単元構成になっている。大乘仏教の精神を現代的な「共生」という言葉で表現し、中高6年間(正確には5年間)の共通テーマとした点に特徴がある。

中学1年では、創立者や学園の歴史、釈尊の生涯と仏教教理、仏教説話などで、他に「共生」として、「ボランティアを考える」がある。また、年に4回行われる宗教行事の解説がある。2年では、宗祖法然上人の生涯とインドや中国、日本の各宗派を理解する仏教史、「共生」として、いじめ、いのちと平和、学園が取り組んでいるセイブ・ザ・チルドレン(Save the Children)運動などの単元が置かれている。3年では、仏教教理、坂村真民や相田みつおなどの現代仏教詩、ジャータカや父母恩重経などの仏教説話、古典文学や宮沢賢治などの仏教文学、内外の宗教として、神道、日本の民俗宗教、キリスト教、イスラーム、日本の新宗教、「共生」として身近な環境問題が置かれている。

カリキュラムの構成としては、学園の歴史、仏教教理と仏教史、仏教文学、他宗教、仏教の現代的展開などの柱からなり、学期ごとに宗教行事の解説が単元として配してある。学園の歴史は、自校教育として生徒のスクールアイデンティティの醸成に寄与し、仏教教理と仏教史および仏教詩歌等は仏教知識や仏教的情操を培うためには不可欠のものと考えられた。また、他宗教の知識は、宗教そのものの理解をねらいとした。さらに、現代と仏教とのかかわりの単元は、「共生」というタイトルを付して、現在あるいは将来を生きる若い生徒が、主体的に考え、自ら生き方を模索するための基礎知識を教授するといったねらいがあった。

高等学校でも、中学校のカリキュラムとほぼ同じ内容であるが、仏教史や法然上人の生涯、他宗の歴史、他宗教についてより詳しく学ぶ。「共生」では、人権、国際理解、環境問題、南北問題、高齢化社会の福祉、尊厳死・臓器移植などの項目が置かれている。仏教教理や仏教史、他宗教は主として知識教育、文学、「共生」および宗教行事は、主として宗教理念による人間教育をめざしている。

ここで、一例として、研究班によって示された高校(一貫性クラス)2、3年2学期の単元「共生」の1、2時間目「国際理解と仏教」1・2の指導原案の例を具体的に見ていく。この時間の目的は、「国際理解と仏教」1の目的は「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを重視する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の養成を図る」、内容は「国際社会の相互依存関係が増大している現状を理解し、異文化への暖かいまなざしを育てるための解説をする」。「国際理解と仏教」2は、目的「他国の文化や伝統に対する知識・理解を深め、その基本となる共生の思想をより深く理解する」、内容「すべての文化はそのもと

で生活する人々にとってかけがえのない重要なものであるという文化多元主義を解説し、共生の思想からそれをどうとらえられるか、考える』となっている。

これに関連して、研究班の報告書には以下のような記述がある。そこでは文部科学省の方針とのかかわりで「国際理解と仏教」教育の考察がなされている。以下、研究班による『「宗教（建学精神）」カリキュラム開発の研究 報告書』（1998）から引用する<sup>5)</sup>。

近年の著しい国際化の進展は、教育の分野にも大きな影響を与えつつあるといえる。

たとえば、第15期中央教育審議会第一次答申『21世紀を展望したわが国の教育の在り方について』（文部時報平成8年8月臨時増刊号）では、その第3部「国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方」の1章をとって「国際化と教育」のページを割いている。それによれば、国際化の状況に対応して教育を進める留意点として、以下の3点が挙げられている。

- 1) 広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを重視する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の養成を図ること。
- 2) 国際理解のためにも、日本人として、また、個人としての自己の確立を図ること。
- 3) 国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育成する観点から、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図ること。

そして、国際理解教育は、各教科、道徳、特別活動などを問わず、推進されるべきもので、単に知識教育にとどめることなく、体験的な実践をふんだんに取り入れて、実践的な態度や資質、能力を育成する必要がある。そのためには、情報通信ネットワークの活用を図ったり、これらの教育にふさわしい人材を学校外から積極的に招くことなども考えられるとする。そして指導の在り方として、「総合的な学習の時間」の活用が示唆されている。

この「総合的な学習の時間」は、完全学校五日制の教育課程で小学校3年から高校まで導入されるもので、「外国人との交流、外国語や外国の生活・文化に親しむ」（小学校）、「環境問題について世界の国々とインターネットを通じて交流する」（中学、高校）などとなっている。

次に、文部省が「道徳」で、国際化教育をどのように位置づけているか、みていく。『小学校学習指導要領第3章道徳』によれば、第5、第6学年において、「外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々との親善に努める」とあり、それに先だって「郷土やわが国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ」とある。またこの郷土愛と愛国心については、第3、第4学年においても「わが国の文化や伝統に関心をもち、国を大切にすることをもち」とあり、道徳の時間における、国際教育はこのあたりに位置づけられると考えられる。

また、中学校においては、同様に「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に尽くすとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に役立つように努める」、「世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献するように努める」とあり、さらに『中学校指導書道徳編』（平成元年3月）において、その指導の観点として、以下のように記されている。すなわち、「国を愛することは、偏狭で排他的な自国賛美ではなく、『優れた伝統の継承と新しい文化の創造に尽くす』ことを含め、国際社会に寄与しようとする」ことであり、「国際社会の中で独自性を持ちながら、世界に貢献すべきことを願う気持ち」をもつことである。また、他の国にも「日本と同じよ

5) 磯岡哲也、「中学・高校共通カリキュラムおよび指導案3（主として現代的要素）」、同上書、61—63頁。

うに、その国の伝統に裏打ちされたよさがあることやその国独自の文化と伝統に各国民が誇りをもっていることを理解させることが大切で、外国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念』を重視することがうたわれている。また、『国を愛する心は、国際的視野に立つて、『世界の平和と人類の幸福に貢献する』という広い心に支えられて、高められていくもの』であるとしている。

要約すれば、ここでは『文化と伝統の尊重と国際理解の推進』がセットになって提示されているといえる。そして、仏教教育のなかでの国際教育は以上のような観点を取り入れたものであることが望ましいように思われる。そこで、この単元の目標と内容を学祖の思想に即して、以下のようにも考えることができる。

目標：国を愛する心を養い、人類愛の尊さを教えることによって、『視野を世界と人類の将来に』という学祖の精神を理解する。ことに、『新しい時代の世界と人類の将来にまで視野をひろげ、わが学園の教育理念たる大乘仏教精神を体して・・・(中略)・・・全人類同胞の文化開発・社会保障・社会福祉に挺身奉仕する使徒』(『大乘淑徳教本』)であつてほしいとする学祖の願いに応えうる心のかまえを涵養する。

具体的には、以下の柱が考えられよう。

- 1) 日本の文化や伝統への理解を図るとともに、それらの根底にある仏教文化への親しみを育てる。  
→ わが国の仏教文化への理解。
- 2) 郷土を愛する心、お年寄りや先人の努力に感謝する心を育てる。→ 高齢者への尊敬、先祖への敬慕の念を養う。
- 3) 伝統を継承するとともに大乘仏教精神による新しい文化の創造に貢献しようとする態度を育てる。→ たとえば、共生の思想。
- 4) 他国の文化や伝統に対する知識・理解を深める。→ 外国語、地理、歴史教育との関連。
- 5) 誰に対しても温かい心で接し、共に手をたずさえ、世界の平和や人類の幸福・発展に貢献していくとする資質を養う。→ 感謝と思いやりの心、ボランティア、菩薩道。

研究班のカリキュラム案には、クロス・カリキュラムの提言も盛り込まれている。これは、共生の理念を淑徳の時間や宗教行事のみに限定させないで、他の教科や生徒指導でも教えられるのではないかという発想であつた。たとえば、『仏教と脳死問題』というテーマであれば、国語、現代社会、倫理、生物でも採り上げることは可能だし、『仏教と環境問題』なら、国語、現代社会、倫理、物理、生物、家庭科からのアプローチも考えられる。『共生』の教育を学校のすべての教育課程で行おうとする考え方である。これは、全教員が、自分の教科の問題として、『共生』を扱うことを意味する。さらに、全教員が、淑徳の時間を担当することにもつながっていく、といった構想であつた。実際には、教員の理解と意欲と能力の向上が必要条件となるため、早期の実現には困難はともなうことが予想され、未だ実現していないが、宗教教育のユニークな一形態として、注目すべき議論であるといえよう。

### Ⅲ. 宗教教科書開発

#### 1. 教科書開発の過程

その後、研究班は一部メンバーを入れ替えて、1998年から実際に現場で使えるような、教科書(正確にはサブテキスト)の執筆作業に入った。当初は、それぞれの項目に沿って、目的・内容に合致したものを中学校分、高校分と分けて執筆した。執筆者は、教育経験豊富で、大学院で仏教学か宗教学を修めた研究者でもあり、執筆は順調であった。先述したように、一つの学校法人でこのような試みはあまりなく、パイオニア的な熱意をもって、授業で使っている資料や写真なども加えた大部の原稿が重ねられていった。しかし、実際に作成されたものは、結果としてかなりコンパクトになった。その理由の第一は、すべての入学者に無償配布するというコスト面からのものであったが、実際、教室で確保できる「淑徳の時間」はせいぜい年間20時間程度に過ぎないことも影響した。そして2001年3月に大幅に項目を減らしたB5判101ページの試用版を作成して、教室で試用した。担当教員や生徒から広く意見を集め、2002年4月に『おかげの糸』を刊行し、何回かの細部の改訂を経て現在に至っている。ここには、仏教教理や法然上人関連だけでなく、仏教の現代的展開すなわち「共生」の内容も盛り込まれている。カリキュラム開発段階での内容面からみると中学生向きであるが、試用してみて高校でも適当ということで、現在まで中学校高校で利用されている。その後、淑徳中学校でこの教科書を用いた公開研究授業が行われ、執筆者も研究協議会に加わりこの教科書を活かすための研修会を実施している。

#### 2. 教科書の内容

『おかげの糸』の目次は資料4を参照されたい。全体で24の項目からなり、内訳は「釈尊の生涯と思想」7、「仏教関連の倫理」6、「法然上人の生涯と教え」3、「仏教関連の説話や詩」4、「共生」4となっている。

2002年2月筆者は、学園本部にてこの教科書の発行の意義と、使用法を次のように報告した。この教科書の発行のねらいと概要については以下の11点を挙げた。

- 1) 現代社会の変化に対応できる「生きる力」を備えた生徒、自己をかえりみ他者を思いやることのできる「豊かな心」をもった生徒の育成のために、建学の精神である「共生の理念」を基盤とした中等教育向けの教材を現代的な視点から作成した。
- 2) 学園のスクールアイデンティティ (S I) を明確化し、中等教育部門の宗教教育における「縦の一貫制」と「横の一貫制」をいっそう推進するため、1998年に提出した共通カリキュラム案を下敷

きにした教材を作成した。

- 3) 全24テーマで、釈尊伝、平易な仏教の教え、法然上人伝、仏教文学（古典説話や現代詩）、現代社会と仏教を内容とする。これを中学校と高等学校の『淑徳の時間』でサブテキストとして使用する。
- 4) 体裁は、B 5 判101ページで、表紙は2色、本文はクリーム地に1色（黒）である。
- 5) 釈尊伝や法然上人伝、仏教教理や仏教史については、スタンダードな仏教の知識教育をめざし、正確さを保ちつつ平易で親しみやすい文章で表記した。
- 6) 仏教文学や現代社会と仏教については、古典や現代詩、環境、南北問題、人権、ボランティア、国際理解などの現代的テーマを『共生思想』と関連づけ、生徒が自分の問題として考えていけるように内容を工夫した。
- 7) 諸所に本学園で行っている宗教行事の由来や意義を簡単に解説したコラムを置いた。
- 8) 難解な仏教用語や専門用語は極力避け、平易なことばに変えるようにした。また、どうしても必要な用語についてはルビを付した。
- 9) 生徒の理解を促すため写真やイラスト、地図などを用いた。
- 10) 教材に採り入れた詩歌や説話、随筆、新聞記事などの文章教材は、生徒の心に直接響くような質の高いものを選定した。
- 11) 学校法人独自での宗教教育教材開発は、仏教教育界で宗教教育の重要性が叫ばれているにもかかわらずあまり例がない。その意味で学術的にも教育実践的にも刊行の意義は少なくないものと思われる。

次にこの教材テキストの使用方法として、以下の5点を指摘した。

- 1) 『おかげの糸』は、『淑徳の時間』の教科書ではなく、あくまでサブテキストとしての使用を前提として作成されている。したがって、担当教員の自由な創意工夫のもとで利用されることが望ましい。
- 2) 『おかげの糸』は、従来の『大乘淑徳教本』との併用を前提として作成されている。とくに、『学祖・校祖』、『学園や学校の歴史』、『宗教行事』などについては、これまでとおり『大乘淑徳教本』を使用する必要がある。また、『法然上人伝』など、他の項目についても『教本』と関連させた利用が望ましい。
- 3) 宗教教育は、教師主導のいわゆる一斉授業だけでなく、個人や班ごとの討論や発表、作文、講演会、宗教行事や聖歌の練習、写経、地域活動、校外研修、セイブ・ザ・チルドレンなどのボランティア活動など、多様な形態が想定される。これらの全活動のなかにこの『おかげの糸』が有機的に組み込まれ、活用されることが望ましい。
- 4) なお、『おかげの糸』は、中等教育における本学園の宗教教育のスタンダードなものとして作成されている。したがって、各部門においては最低限この内容を消化できる程度の『淑徳の時間』時数が確保される必要があるものと思われる。
- 5) 今後は、学園の宗教教育における「縦横の一貫制」をいっそう推進するため、『淑時』担当教員の研修として、共通教材である『おかげの糸』を利用した研究授業等を実施することが望ましい<sup>6)</sup>。

6) 磯岡哲也、『配布資料：新テキスト発行の意義と使用方法について』、『淑徳の時間教材テキスト『おかげの糸』説明・懇談会』、2002. 2. 18. 法人本部にて。

次に、23番目の「共生」単元の項目を紹介する。これは、大乗淑徳学園全体でさまざまな形で展開している、ボランティアについての内容である。仏教や日本文化の立場からボランティアを理解させ、生徒の作文を素材として掲載して、生徒一人ひとりに考えさせる機会を与えようとしているものである。資料5を参照されたい。

#### Ⅳ. 若干の考察

仏教系学校が、宗門とは別個に宗教教育のカリキュラムや教材開発を行う要因は、どこに求められるだろうか。この事例の場合、当該学校外の社会的要因と学園内の個別的要因とが考えられる。

学園外の社会的要因としては、この時期文部科学省を中心として教育界や社会全体において、いわゆる「こころの教育」の必要性が叫ばれ出したことが挙げられる。1998年6月、中央教育審議会は、「新しい時代を拓く心を育てるために」という答申を公表した。ここでは、従来の道徳科に示されている徳目にとらわれず、正義感や公正さ、生命や人権を尊重する態度、他人を思いやる気持ち、自己抑制力、責任感などの子どもの情緒性を培うことが強調されている。これは、1997年8月に文部大臣より諮問されたもので、凶悪な青少年犯罪の頻発、不登校、いじめ、暴力、非行などの問題行動の深刻化が背景にある。また、1995年にオウム真理教が起こした未曾有の犯罪を契機に、青少年のこころのケアを、学校教育や宗教界に期待するという論議が盛んになった。宗教系私学における宗教教育の強化的見直しの傾向は、このような社会思潮が反映したものと考えることができよう。

もう一つの社会的要因は、少子化を背景にした、児童生徒数の減少が挙げられる。これは、私学にとっては深刻な問題で、すでに中等学校から大学に至るまで定員割れの状況が起こっている。そのため、私立学校は生き残りをかけて、学校の特色を出していくことが急務となった。その場合、単に受験生募集といった理由からの表面的な個性化だけではなく、この際私学の存在理由としてのアイデンティティの再確認・再構築の必要性が認識されてきている。ここに、宗教系学校が、創立者の教育理念や建学の精神に立ち戻った宗教教育の強化的見直しをはかる理由があったのである。

以上は広く宗教系学校一般に適合する要因であるが、これに関連して、事例のみに該当する要因も考えられる。複数の傘下校をもつ宗教系学校法人の場合、S I (School Identity)構築のために、まず宗教教育の教育理念、教育内容、教育方法の共通化を図る必要がある。本事例の場合、じつは、学校ごとに設立の経緯、校訓が異なり、宗教教育の内容も、それぞれの伝統に基づいて別個に行われてきた。実際、教科としての宗教教育は、学校ごとというより個々の担当教員によってそれぞれ行われ、教員間、学校間の連絡や交流がほとんどなかつ

た、学園本部は、このような状況こそが、S I を阻害するものととらえた。そこで、まず建学の理念である宗教教育の強化により学園内の「横の一貫制」の実現を図ることになったのである。この意味で、この研究班は、期待された具体的な役割を遂行するなかで、同時に学園のS I 構築にも寄与したといえよう。

## 《資料 1》

### 中学校共通カリキュラム案

#### 1. 中学 1 年

##### (1) 1 学期

- 1) 仏教聖歌・意味・作法
- 2) 学園の歴史
- 3) 校祖（輪島聞声）
- 4) 学祖（長谷川良信）
- 5) 「花まつり」（降誕会）解説
- 6) 「魂まつり」（盂蘭盆会）解説
- 7) 釈尊の生涯・誕生
- 8) 釈尊の生涯・四門出遊
- 9) 釈尊の生涯・出家
- 10) 釈尊の生涯・苦行

##### (2) 2 学期

- 1) 釈尊の生涯・成道
- 2) 初転法輪と伝道の旅・縁起
- 3) 初転法輪と伝道の旅・中道
- 4) 初転法輪と伝道の旅・四諦
- 5) 初転法輪と伝道の旅・八正道
- 6) 初転法輪と伝道の旅・慈悲
- 7) 初転法輪と伝道の旅・五戒
- 8) 初転法輪と伝道の旅・無財の七施（傲慢と施し）
- 9) 初転法輪と伝道の旅・友愛、善知識（よき友達）
- 10) 「成道会」の解説
- 11) 「共生」について・「ボランティア」を考える 1

## 12 종교교육학연구, 제38권

### 12) 「共生」について・「ボランティア」を考える 2

#### (3) 3 学期

- 1) キサーゴータミー (子のころ、親のころ)
- 2) アングリマーラ (忍耐力)
- 3) 「御忌会」解説
- 4) 涅槃
- 5) 「涅槃会」解説
- 6) 仏教説話・鬼子母神 (親のころ)
- 7) 仏教説話・周梨般特 (掃除をして救われる)

#### 2) 中学 2 年

##### (1) 1 学期

- 1) 法然上人の生涯・法然上人のビデオ「わたしたちの法然さま」(幼少期中心)
- 2) 法然上人の生涯・生誕、幼少
- 3) 法然上人の生涯・出家、勉学
- 4) 法然上人の生涯・立教、開宗
- 5) 法然上人の生涯・法然の晩年 6) 仏教のあゆみ・仏教の伝播 (インドから北伝、南伝)
- 7) 仏教のあゆみ・大乘仏教 (浄土教、経典について)
- 8) 仏教のあゆみ・仏教伝来
- 9) 仏教のあゆみ・聖徳太子の生涯
- 10) 仏教のあゆみ・聖徳太子の思想

##### (2) 2 学期

- 1) 仏教のあゆみ・奈良仏教、聖武天皇、光明皇后
- 2) 仏教のあゆみ・平安仏教 1 (最澄)
- 3) 仏教のあゆみ・平安仏教 2 (空海)
- 4) 仏教のあゆみ・鎌倉仏教 1
- 5) 仏教のあゆみ・鎌倉仏教 2
- 6) 仏教のあゆみ・神仏習合
- 7) 「共生」・いじめを考える 1
- 8) 「共生」・いじめを考える 2
- 9) 「共生」・アニメ『はだしのゲン』をみて (平和を考える)
- 10) 「共生」・「セイブ・ザ・チルドレン」1 (国際教育、福祉教育の一環)

11) 「共生」・「セイブ・ザ・チルドレン」2 (運動の担当者の講話)

12) 「成道会」解説

(3) 3 学期

1) 仏教のあゆみ・アショーカ王 1

2) 仏教のあゆみ・アショーカ王 2

3) 仏教のあゆみ・玄じょう三藏

4) 仏教のあゆみ・鑑真

5) 「共生」・ガンジー (宗教と平和)

6) 「共生」・動物園の像の物語ビデオをみて (いのちと平和を考える)

7) 「涅槃会」解説

3. 中学 3 年

(1) 1 学期

1) 三法印・諸行無常

2) 三法印・諸法無我、涅槃寂静

3) 六波羅蜜 1

4) 六波羅蜜 2

5) 修学旅行の事前指導・仏教の伝統文化にふれる 1

6) 修学旅行の事前指導・仏教の伝統文化にふれる 2

7) 仏教詩集・坂村真民

8) 仏教詩集・相田みつを、阿部野竜正

9) 仏教説話 (経典より)・『本生経』ジャータカ物語 (善と悪)

10) 仏教説話 (経典より)・『父母恩重経』(親孝行、孝養)

11) 仏教説話 (経典より)・『観無量寿経』(アジャセ物語、親への思い、孝養)

(2) 2 学期

1) 文学作品・『宇治拾遺物語』より

2) 文学作品・『撰集抄』より

3) 文学作品・『沙石集』より

4) 文学作品・宮沢賢治『手帳』または『春と修羅』

5) 文学作品・芥川龍之介『蜘蛛の糸』

6) 内外の宗教・神道

7) 内外の宗教・日本の民俗宗教

14 종교교육학연구, 제38권

- 8) 内外の宗教・キリスト教
  - 9) 内外の宗教・イスラーム
  - 10) 内外の宗教・日本の新宗教
  - 11) 「共生」・身近な環境問題を考える 1
  - 12) 「共生」・身近な環境問題を考える 2
- (3) 3 学期
- 1) 「共生」・一期一会
  - 2) 「共生」・三毒
  - 3) 「共生」・菩薩道
  - 4) 『般若心経』写経 1
  - 5) 『般若心経』写経 2

《資料 2》

高等学校共通カリキュラム案 (中高一貫制)

1. 高校 1 年

- (1) 1 学期
- 1) 学園関係・学園の歴史
  - 2) 学園関係・校祖 (輪島聞声)
  - 3) 学園関係・学祖 (長谷川良信)
  - 4) 「花まつり」解説
  - 5) 釈尊伝・誕生と青年時代ー誕生、四門出遊
  - 6) 釈尊伝・道をもとめてー求道の旅、苦行
  - 7) 釈尊伝・降魔、成道、梵天勧請
  - 8) 初転法輪・縁起、中道
  - 9) 初転法輪・四諦、八正道
  - 10) 初転法輪・三法印
  - 11) 初転法輪・六波羅蜜
- (2) 2 学期
- 1) 伝道の旅・十大弟子

- 2) 伝道の旅・祇園精舎
- 3) 伝道の旅・釈迦族の滅亡、最後の旅 1
- 4) 伝道の旅・最後の旅 2
- 5) 釈尊滅後のインド仏教（経典の編纂）
- 6) アショーカ王
- 7) 大乘仏教成立と大乘経典（その源流、菩薩の出現）
- 8) 仏教の東漸と中国仏教（西域地方、訳経者の努力、浄土教の祖師）
- 9) 朝鮮半島の仏教、仏教伝来
- 10) 聖徳太子の生涯
- 11) 聖徳太子の思想
- 12) 「成道会」の解説（「釈尊の生涯」を扱ったビデオ上映）

(3) 3 学期

- 1) 奈良仏教（南都六宗、鑑真、国分寺と東大寺）
- 2) 平安仏教 1（最澄）
- 3) 平安仏教 2（空海）
- 4) 鎌倉仏教 1（栄西、親鸞、道元、日蓮、一遍）
- 5) 鎌倉仏教 2（隠元、良寛、蓮如）
- 6) 神仏習合
- 7) 「涅槃会」の解説

2. 2 年（学校によっては 3 年）

(1) 1 学期

- 1) 法然上人伝・法然上人のビデオ「わたしたちの法然さま」上映
- 2) 法然上人伝・浄土教の先駆、空也、源信、末法思想
- 3) 法然上人伝・生涯 1（比叡山、求道の遍歴、大原談義）
- 4) 法然上人伝・生涯 2（全階層からの帰依、『選択集』撰述、旧仏教の弾圧、配流）
- 5) 法然上人伝・教え 1（『一枚起請文』）
- 6) 法然上人伝・教え 2（または「増上寺研修」事前指導）
- 7) 「共生」・「いのち」を考える
- 8) 「共生」・「セイブ・ザ・チルドレン」1（国際教育、福祉教育の一環）
- 9) 「共生」・「セイブ・ザ・チルドレン」2（運動の担当者の講話）
- 10) 「共生」・「人権」を考える

16 종교교육학연구, 제38권

(2) 2 学期

- 1) 内外の宗教・神道
- 2) 内外の宗教・日本の民俗宗教
- 3) 内外の宗教・キリスト教
- 4) 内外の宗教・イスラーム
- 5) 内外の宗教・日本の新宗教
- 6) 「共生」・「国際理解と仏教」1
- 7) 「共生」・「国際理解と仏教」2
- 8) 「共生」・「平和」を考える（修学旅行に関連して1）
- 9) 「共生」・「平和」を考える（修学旅行に関連して2）
- 10) 『般若心経』解説1（松原泰道「般若心経入門」ビデオを上映）
- 11) 『般若心経』解説2（担当教員による解説）
- 12) 『般若心経』写経1
- 13) 『般若心経』写経2

(3) 3 学期

- 1) 「共生」・「環境問題」を考える1（アーナンダの故事）
- 2) 「共生」・「環境問題」を考える2
- 3) 「共生」・「南北問題」を考える1
- 4) 「共生」・「南北問題」を考える2
- 5) 「共生」・「尊厳死、臓器移植」などの生命倫理1
- 6) 「共生」・「尊厳死、臓器移植」などの生命倫理2
- 7) 「共生」・「高齢化社会」を考える1
- 8) 「共生」・「高齢化社会」を考える2

《資料3》

高等学校共通カリキュラム案（外進クラス、淑徳与野高）

1. 高校1年

(1) 1 学期

- 1) 学園関係・仏教聖歌、意味、作法
- 2) 学園関係・学園の歴史

- 3) 学園関係・校祖（輪島聞声）
- 4) 学園関係・学祖（長谷川良信）
- 5) 『花まつり』解説
- 6) 釈尊伝・『釈尊物語』ビデオ上映
- 7) 誕生と青年時代ー誕生、四門出遊
- 8) 釈尊伝・道をもとめて一出家、苦行
- 9) 釈尊伝・降魔、成道、梵天勧請
- 10) 『魂まつり』（孟蘭盆会）解説

(2) 2学期

- 1) 初転法輪・縁起、中道
- 2) 初転法輪・八正道
- 3) 初転法輪・四諦
- 4) 初転法輪・六波羅蜜
- 5) 初転法輪・無財の七施
- 6) 初転法輪・五戒
- 7) 初転法輪・慈悲
- 8) 初転法輪・三法印
- 9) 釈尊最後の旅・涅槃 1
- 10) 釈尊最後の旅・涅槃 2
- 11) 祇園精舎の寄進
- 12) 『成道会』の解説

(3) 3学期

- 1) 仏教史・釈尊滅後のインド仏教
- 2) 仏教史・アショーカ王
- 3) 仏教史・大乘仏教成立と大乘經典
- 4) 仏教史・仏教の東漸と中国仏教
- 5) 仏教史・日本への伝来
- 6) 仏教史・聖徳太子の生涯
- 7) 仏教史・聖徳太子の事跡
- 12) 『涅槃会』の解説

18 종교교육학연구, 제38권

2. 高校2年 (学校によっては 3 年)

(1) 1学期

- 1) 「花まつり」解説
- 2) 日本仏教史・奈良仏教 1 (聖武天皇、国分寺・国分尼寺、光明皇后)
- 3) 日本仏教史・奈良仏教 2 (鑑真、行基、南都六宗)
- 4) 日本仏教史・平安仏教 1 (最澄)
- 5) 日本仏教史・平安仏教 2 (空海)
- 6) 法然上人伝・ビデオ「わたしたちの法然さま」上映
- 7) 法然上人伝・法然上人の生涯と思想 1
- 8) 法然上人伝・法然上人の生涯と思想 2
- 9) 「共生」・「いのち」を考える
- 10) 「魂まつり」(孟蘭盆会)解説

(2) 2学期

- 1) 鎌倉仏教 1 (末法思想と浄土教、親鸞、一遍)
- 2) 鎌倉仏教 2 (栄西、道元、日蓮)
- 3) その他の仏教者(蓮如、良寛、隠元)
- 4) 内外の宗教・神道
- 5) 内外の宗教・日本の民俗宗教
- 6) 内外の宗教・キリスト教
- 7) 内外の宗教・イスラーム
- 8) 内外の宗教・日本の新宗教
- 9) 『般若心経』解説
- 10) 『般若心経』写経 1
- 11) 『般若心経』写経 2
- 12) 「成道会」解説

(3) 3学期

- 1) 「共生」・「環境問題」を考える 1
- 2) 「共生」・「環境問題」を考える 2
- 3) 「共生」・「南北問題」を考える 1
- 4) 「共生」・「南北問題」を考える 2
- 5) 「共生」・「尊厳死、臓器移植」などの生命倫理 1
- 6) 「共生」・「尊厳死、臓器移植」などの生命倫理 2

7) 「共生」・「高齢化社会」を考える 1

8) 「共生」・「高齢化社会」を考える 2

#### 《資料 4》

『淑徳の時間 おかげの糸』(石上善應監修・大乘淑徳学園)2002年4月

- 1) お釈迦さま
- 2) お釈迦さまの生涯 (1)誕生・幼少時代
- 3) お釈迦さまの生涯 (2)四門出遊・出家
- 4) お釈迦さまの生涯 (3)修行・おさと
- 5) お釈迦さまの生涯 (4)自灯明・法灯明・涅槃
- 6) 友情
- 7) ジャータカ物語
- 8) ハーリーティー (鬼子母神)、キサーゴータミー
- 9) 父母恩重経
- 10) 守らなければならない五つのルール (五戒)
- 11) お金がなくともできること (無財の七施)
- 12) 法然上人の生涯 (1)誕生・幼少・出家
- 13) 法然上人の生涯 (2)修行・開宗・晩年
- 14) 法然上人の教え
- 15) 赤・橙・黄・黄緑・緑・青・紫-虹の色
- 16) 世界の子供を救いたい
- 17) 宇治拾遺物語
- 18) 撰集抄
- 19) 念ずれば花ひらく-坂村真民
- 20) にんげんだもの-相田みつを
- 21) 「ありがとう」の気持ち
- 22) 身近な環境問題

#### 《資料 5》 「ありがとう」の気持ち

##### ボランティアを考える

自動販売機でジュースを買ったことありますよね? お金を入れてボタンを押すと、ガラガラ

ガシャーン、ジュースの缶が出てきます。小学生が買っても大学生が買っても90才の老人が買っても、300円しか持ってない人も、1億円持っている人もみんな同じ値段です。お金を払うとそれに応じて物やサービスが手にはいります。これが私たちの社会のルールです。

でも、高いお金を払ったのにそれに見あう物やサービスが手に入らなければ怒ります。例えば、やっと手に入れたコンサートのチケットなのに突然中止になってしまったら、払い戻してもらわなければ気持ちが収まりません。

また、お金を払わないものは無駄にしても平気、感謝の心も薄れがちです。例えば、毎日吸っている空気、誰もお金を払っていません。タダです。空気がなければ誰も生きていられません。空気に「ありがとう」と感謝している人は、はたして何人いるでしょうか？ところが反対に物やサービスを自分から提供して、その見返りを求めないこともあります。例えば、席をゆずったり、荷物を持ってあげたり、必要の無くなった品物を送ったり、道を教えたり、お弁当を届けたり、草刈を手伝ったり…。自分で決めて行動し見返り（対価）を求めない人、あるいはその活動をボランティア（volunteer）といいます。ボランティアを「お金や時間がある、特殊な才能がある人がやるもの」と誤解（ごかい）している人がいますが、そんなことはありません。ちょっとした工夫で皆さんができることがたくさんあります。一般の人がボランティアをする組織をNPO/NGO（エヌピーオー・エヌジーオー）（民間の営利を目的としない組織）といい、近頃あらゆる分野で盛んになってきました。

仏教では修行の第一に布施（ふせ）をあげています。布施は「広く施す」ということで、ボランティアと同じ意味を持っているのです。

お釈迦さまはいわれました。

「施しは一方通行、見返りを期待してはならない。」

なぜ施すのでしょうか？それはあらゆるものが施され、生命を授かり、保たされている自分に気づくためです。「ありがとう」は「有難（ありがた）う」とも書きます。有ることが難しいことに気づいた言い方です。仏教では、時間、体力、知力、財力ばかりではなく、笑顔、優しい眼差し、思いやりの心なども施せることを説きます。

古代インドでは布施のことをダーナ（dāna）といい、長い時間をかけて東と西に伝わっていきました。中国人はダーナに「旦那（だんな）」とか「檀那（だんな）」と当て字しました。それが日本に伝わり、布施をする人を「旦那様」、お寺に布施して守る家を「檀家（だんか）」と言うようになりました。

ヨーロッパではダーナはドナー（donor＝施主（せしゅ））となり、寄付のことは英語でドネーション（donation）といいます。最近、日本でも「ドナーカード（臓器提供意思表示カード）」のようにドナーという言葉を目にするようになりました。旦那とドナー、インドを中心に何万キロも離れた欧米と日本で、その精神は今も生きています。

自分で決めて自分でやること、例えば朝起きてから、学校へ行くまでを考えてみましょう。

目覚まし時計だけで自分で起きましたか？

家族に「おはよう」と自分から挨拶できましたか？

朝ご飯のしたくは自分から手伝いましたか？

後かたづけは自分でしましたか？

忘れ物がないか自分で確認して遅れないように家を出ましたか？

家を出るとき「行って来ます。」と自分から挨拶できましたか？

いくつ〇がついたでしょう？

ボランティアは、自分で決めて実行する満足感、自分にタダで与えられているものへの感謝、無駄を省く姿勢、お金にしばられない心の余裕など、多くのことが知らず知らずに授かるようです。

心から「ありがとう」と言える、そんな素敵なお大人を目指して、できることから少しずつやってみましょう。

### ボランティア体験記

#### 中学生男子1

僕はこの夏休みにボランティアについて考えました。ボランティアに参加するのは初めてなのでちょっととまどってしまいました。それでも一つ名案があったのでやってみました。ぼくは海で釣りを楽しんでいましたがものすごくゴミが落ちていましたので、ゴミを拾うことにしました。ゴミはかなりありました。特に多かったのは缶と釣り道具の入れ物とか切れた糸が目立ちました。それにしても前にここにきた人はマナーが悪いです。そこらじゅういつぱいにゴミを捨てていました。

もう一つあります。いっとこと花火大会を見に行っていた後、落ちていたゴミを係員さんといっしょに拾いました。思ったより大変でした。はしとか容器とかありましたが、ひどいのはガムをそのまま捨てていました。花火もいいけど、その後のそうじが終わった後の快感はとてもよかったです。

#### 中学生女子

私はA市の子供会活動の手伝いをしています。連合会のジュニアリーダーとしてレクリエーションの指導など、小学生と遊ぶボランティアです。市民祭りのイベントで今年は熱気球づくりに挑戦しました。小学生も私も初めての経験でいろいろ苦労しましたが、大学生や、社会人の人たちに手伝ってもらって無事に作れました。市営球場で飛ばしましたが、風が強くて気球に火が移ってしまい、燃えたり破けたりして上手に飛ばせませんでした。でも、みんな楽し

そうに飛ばしていたし、

「また作りたいなあ。」などと言ってくれました。

夏の終わりにA市のキャンプ大会に参加しました。今年で29回目で、「自然と友達になろう」をテーマに小学生4～6年生30人、ジュニアリーダー11人、青少年相談員他16人の計57人が2泊3日のキャンプ生活をしました。火のつけかたなどとても勉強になりました。私はかまど担当で、火の見張り役でした。「私が手伝ったら足を引っぱっちゃうかも知れない。」と心配でしたが、「上手にご飯が炊けるようになった。」といわれてとてもうれしかったです。みんなで作ったご飯はとても美味しかったです。1年に1度、屋外で暮らすのも元気になる秘訣だと思いました。

#### 中学生男子2

ありんこクラブは、埼玉県T市にある、T市立の学童保育所です。ぼくは小学校の時ここでお世話になりました。ぼくがいたころはF小学校とS小学校二校の合同保育所だったのでせまい部屋に50人の子供がいた時もありました。ぼくの卒業後S小学校一校の保育所になりました。

何年間もいろいろなボランティアの方や学童の先生方のお世話になり、遊んでもらったことを今回のボランティアで役に立ちたいと考えて、ありんこクラブをボランティアの活動場所に決めました。

学童は道路のわきでちょうどカーブする道の手前にあつて反対側にザリガニ釣りの穴場の川があるので、子供達が道路をわたって交通事故に遭うということもありました。二校で一学童の時、子供50人指導員3人(ボランティア)と言う状態で1～6年の子供の世話をしていたのですから、大変だったと思います。

ボランティアというのは無償で人に奉仕することだと思いますが、大変なことだと思います。夏休みの間、たった一週間子供の面倒を見て先生やボランティアの人たちがどれほど苦労しているかがわかりました。暑い中、寒い中、風の中、雨の中、責任を持って精神を集中して子供達を見る毎日、その苦勞に驚きました。子供達が好きだからできるのだと思いました。めんどくさいとか、うざつたいとか思ったら絶対にできないと思う。ぼくみたいにめんどくさがりには、いい体験になりました。先生方、ボランティアの方、父母会のお父さん、お母さん本当に大変だったと思います。ありがとうございました。一人で大人にはなれないんですね。

## 참고문헌

- 井上順孝, 「グローバル化・情報化時代における宗教教育の新しい認知フレーム」, 『宗教研究』 369, 2011.
- 『「宗教(建学精神)」カリキュラム開発の研究報告書」, 大乘淑徳学園付置長谷川仏教文化研究所, 1998.
- 磯岡哲也, 「共同研究班の発足とカリキュラム開発の意義」, 大乘淑徳学園付置長谷川仏教文化研究所, 1998.
- 磯岡哲也, 「中学・高校共通カリキュラムおよび指導案3(主として現代的要素)」, 大乘淑徳学園付置長谷川仏教文化研究所, 1998.
- 磯岡哲也, 「配布資料: 新テキスト発行の意義と使用方法について」, 『淑徳の時間教材テキスト『おかげの糸』説明・懇談会』, 2002.2.18. 法人本部にて.

---

원고접수 : 2012년 1월 11일 1차 심사 : 1월 25일 게재승인일 : 2월 13일

연구자소개 : 이소오카 테즈야(磯岡 哲也)

① 전공 : 종교사회학 / 소속 : 슈쿠토쿠대(淑徳大学)

② 관심영역 : 종교교육

③ 주요논저 : 『宗教的信念体系の伝播と変容』(学文社, 1999), 「韓国の宗教系学校における宗教教育の現状」, 国際宗教研究所編, 『現代宗教2007』(秋山書店, 2007)

④ E-mail : isooka@soc.shukutoku.ac.jp

---